

第33回大阪府学校教育審議会

日 時 令和3年3月22日（月）15：00～

会 場 ホテルプリムローズ大阪 2階 羽衣

次 第

1 開 会

2 審 議

多様な生徒の就学機会の保障と学びのサポート等について（I）

（1）府立高校のセーフティネットを担う取組み（SSW、日本語指導等）

（2）エンパワメントスクールの取組み

① エンパワメントスクールについて

② 大阪府立長吉高等学校の取組み

3 閉 会

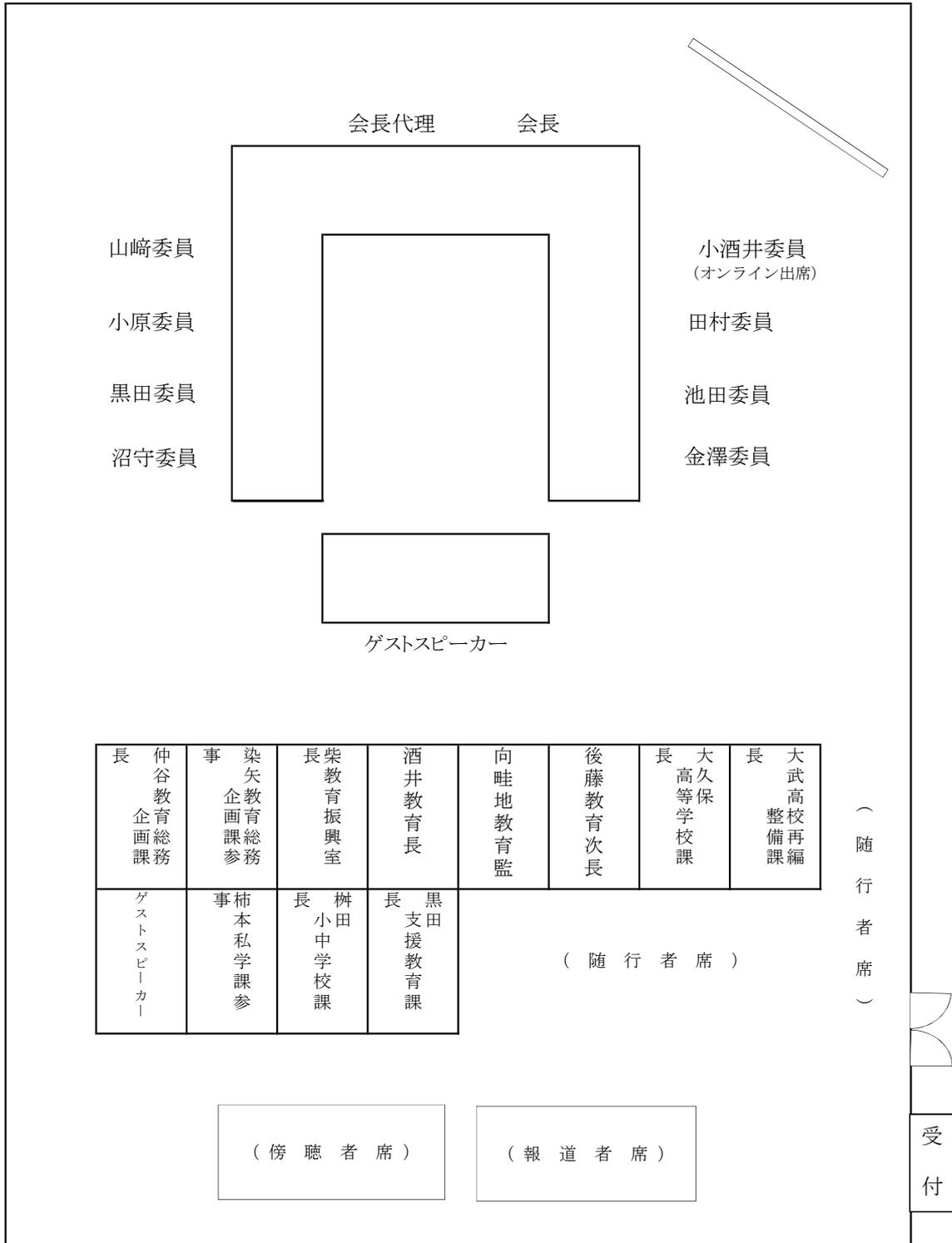
配付資料

- ・ 次第
- ・ 大阪府学校教育審議会委員名簿兼出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 第33回大阪府学校教育審議会 資料

大阪府学校教育審議会委員名簿兼出席者名簿

氏名	職名	分野	第33回会議
浅野 良一	兵庫教育大学大学院 教授	教育学	出席
小田 浩伸	大阪大谷大学 教育学部長	教育学	出席
田村 知子	大阪教育大学 教授	教育学	出席
池田 佳子	関西大学 教授	日本語教育 国際教育	出席
金澤 ますみ	桃山学院大学 准教授	学校ソーシャルワーク	出席
沼守 誠也	大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 総務本部長・教職教育推進本部長	教育行政	出席
小酒井 正和	玉川大学 教授	ICT	出席 (オンライン)
黒田 隆之	桃山学院大学 准教授	社会福祉	出席
小原 美紀	大阪大学大学院 教授	労働経済学	出席
山崎 智恵子	株式会社パソナ マイコーチ淀屋橋・難波チーム チーム長	企業関係者	出席

配席図



第33回大阪府学校教育審議会 資料 多様な生徒の就学機会の保障と学びのサポート等について（Ⅰ）

- (1) 府立高校のセーフティネットを担う取組み
（SSW、日本語指導等）
- (2) エンパワメントスクールの取組み
 - ① エンパワメントスクールについて
 - ② 大阪府立長吉高等学校の取組み

令和3年3月 大阪府教育庁

**(1) 府立高校のセーフティネットを担う取組み
(SSW、日本語指導等)**

(1) 府立高校のセーフティネットを担う取組み (スクールソーシャルワーカーの配置について)

これまでの取組み

- ◆ 貧困や虐待など様々な課題を抱える生徒が多数在籍する学校にスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置
 - ◆ 平成26年度より府立高校に対してSSWの配置を段階的に拡充 (令和2年度31校のうちエンパワメントスクール8校、全定時・制通信制16校を含む)
 - ◆ SSWの勤務回数は月1回程度から週1回程度 (年15回～年32回) など、学校の実情に応じて設定
- ※なお、その他の外部人材として平成25年度より全ての府立高校にスクールカウンセラーを配置

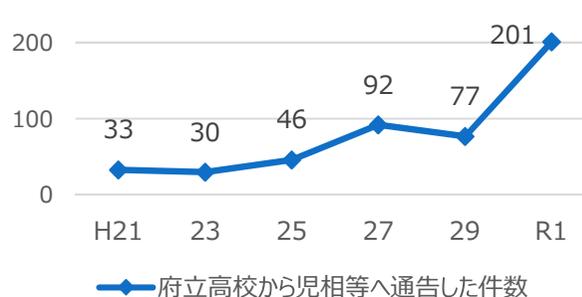
現 状

<大阪府と全国の生活保護の受給率>



※保護率・・・人口1000人あたりの被保護者数
「大阪府の生活保護」より引用

<府立高校から児童相談所等への通告件数>



- ◆ 貧困に起因する虐待等、家庭の課題が複雑化、重篤化しており、修学環境の悪化から中退・不登校に陥ってしまうケースがある。
- ◆ 府立高校から児童相談所等への通告件数は増加傾向にあるが、一因としてはSSWの配置等により教職員の虐待事案に対する意識が高まったとの理由も考えられる。

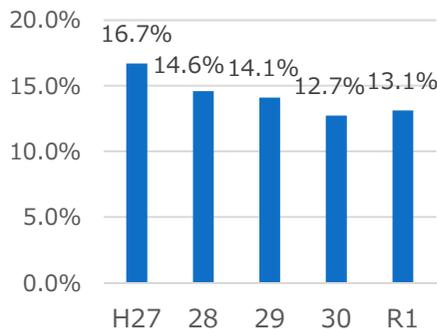
成 果

- ◆ SSW配置校の中退率が減少
- ◆ SSWが安全安心な教育環境の整備に寄与

-SSWの配置により福祉的な観点から対応した事例-

- SSWの助言により早期に一時保護
- 療育手帳を取得している生徒の就労支援
- 子ども家庭センターへの同行支援
- 保護観察中の生徒の保護司との連携

<定時制高校(府立)の中退率>



課 題

- ◆ SSW未配置校への支援
 - ・ 福祉的な支援を要する生徒は多くの未配置校にも存在
 - ・ 教育相談体制の構築 (未配置校においても福祉的な支援が必要)
- ◆ SSWの確保
 - ・ 小中を含め社会的なニーズが高まる中で、絶対数が不足
 - ・ 広域にわたる福祉資源の情報など高い専門性が必要

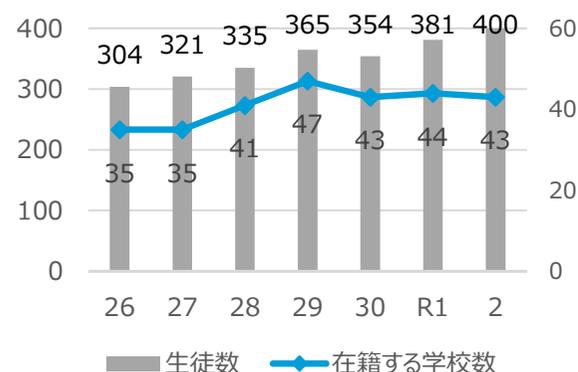
(1) 府立高校のセーフティネットを担う取組み（日本語指導が必要な生徒の支援について）

これまでの取組み

- ◆ 平成13年度選抜より、特別枠を設けて「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」を実施。（ルビ付きの検査問題、辞書持込み等の配慮）（平成13年度：2校 ⇒ 令和2年度：7校） ※平成28年度選抜までは「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」として実施
- ◆ 日本語指導が必要な生徒の在籍する学校に対して教員の加配や非常勤時間数を配当
- ◆ 日本語教育学校支援事業をNPOに委託し、学校からの要望に応じて支援のノウハウを持つ教育サポーターを派遣（令和元年度は23校86名の生徒に対して454回派遣）
- ◆ 学校からの要望に応じて、保護者懇談の際の通訳者や多言語学習支援員（大学等で学ぶ渡日生など）を派遣

現状

＜日本語指導の必要な生徒数＞



＜日本語指導の必要な生徒の中退率＞

	特別枠校	特別枠校以外	全体
R1中退率	3.3%	8.5%	4.6%

＜日本語指導の必要な生徒の進路未定率＞

	特別枠校	特別枠校以外	全体
R1進路未定率	6.2%	20.0%	8.9%

- ◆ 日本語指導が必要な生徒数は増加しており、在籍する学校数も40校を超えている。また、これまで受入れ経験の少ない学校への少数散在化が進んでいる（令和2年度は特別枠校以外の36校に102名が在籍）
- ◆ 対応言語数は約20言語。ここ数年はネパール、ベトナムにルーツのある生徒が増加
- ◆ 特別枠校以外の中退率や進路未定率の割合は特別枠校と比較すると高い

成果

- ◆ 特別枠校においては、体系的な支援体制が確立しており、日本語指導の必要な生徒の中退率や進路未定率が低い。
- ◆ 特別枠校以外の学校についても入学者選抜を含め様々な配慮を実施しており、府立高校が一定セーフティネットの役割を果たしている。

課題

- ◆ 日本語指導が必要な生徒の増加に伴う受入れ体制の確保
- ◆ 教育サポーターなど継続的な支援人材の確保・育成
- ◆ 少数散在する生徒への対応
 - ・全体への体系的な日本語指導のメソッド確立
 - ・生活支援・教育相談体制の整備が必要

(2) エンパワメントスクールの取組み

① エンパワメントスクールについて

(2)-① エンパワメントスクールについて

「わかる授業」「意見を出し合う授業」などを通して、生徒の持っている力を最大限に引き出し、社会で活躍するための力を育む。

エンパワメントスクールの主な特徴

- 1 学年 6 学級 35 人
- 義務教育段階からの「学び直し」のカリキュラムを設定
- 1 年次の国数英は毎日各 30 分のモジュール授業
- 「エンパワメントタイム」では、社会人基礎力を身に付けるために、「正解が 1 つでない問題」について考える授業を実施
- 入学者選抜では、募集定員の最大 50% を面接や自己申告書などを資料として、生徒の意欲を積極的に評価

1 年次の時間割イメージ

時限		月	火	水	木	金
0	10分	朝の10分				
A	30分	(学) 国語				
B	30分	(学) 数学				
C	30分	コミュニケーション英語 I				
3	50分	体育	家庭基礎	体育	(学) 社会入門	体育
4	50分	(学) 社会入門	家庭基礎	(学) 理科入門	保健	(学) 理科入門
5	50分	社会と情報	(学) 社会入門	芸術 I	エンパワ総合	エンパワ産社
6	50分	社会と情報	エンパワ総合	芸術 I	LHR	エンパワ産社

エンパワメントスクールの配置 ※()内は開校年度

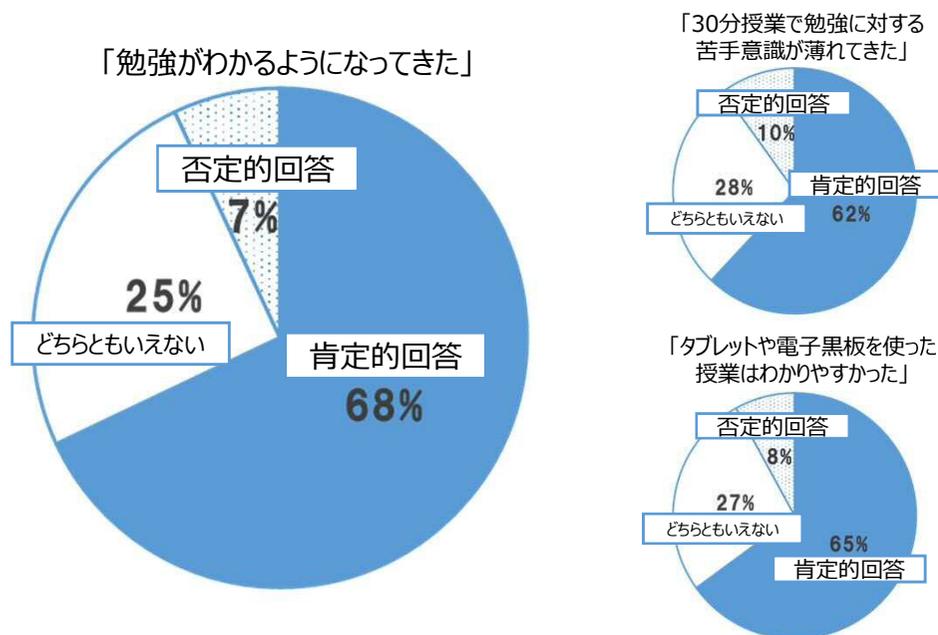


(2)-① エンパワメントスクールについて

学習面を支援する取組みについて

- ◆生徒の「わかる喜び」や「学ぶ意欲」を引き出すため、義務教育段階からの「学び直し」のカリキュラムを設定
- ◆学校規模を1学年6学級35人で編成
- ◆国語・数学・英語では、習熟度別の授業を基本としつつ、さらに1年次ではしっかりとした基礎学力を身に付けさせるため、毎日各30分の「モジュール授業」を23人程度の少人数授業により実施（2クラス70人を3教室に展開して授業実施）
- ◆教育効果を高めるため、電子黒板やタブレット端末等の教具の整備等を行うことで学習環境を充実

平成30年度 エンパワメントスクール1年次末アンケートより



- ▲ 1年次の「学び直し」のための基礎科目と2年次生の必履修科目の難易度に大きな開きを感じて、学習意欲が低下する生徒がいる。

(大阪府立高等学校・大阪市高等学校再編整備計画より)

- ▲ 生徒の抱える課題は多様であり、1人ひとりにより丁寧な対応や指導をするためには、学習支援員等の地域人材を活用できるシステムの構築や、支援学校経験等がある支援教育の専門性の高い教員の配置が必要

(E S 校長より)

成果

生徒の学習に対する苦手意識が改善しており、モジュール授業等の取組みの成果と言える

課題

各項目で否定的な生徒に対応するために、より一人ひとりに応じた支援の方法を検討する必要がある

(2)-① エンパワメントスクールについて

生活面を支援する取組みについて

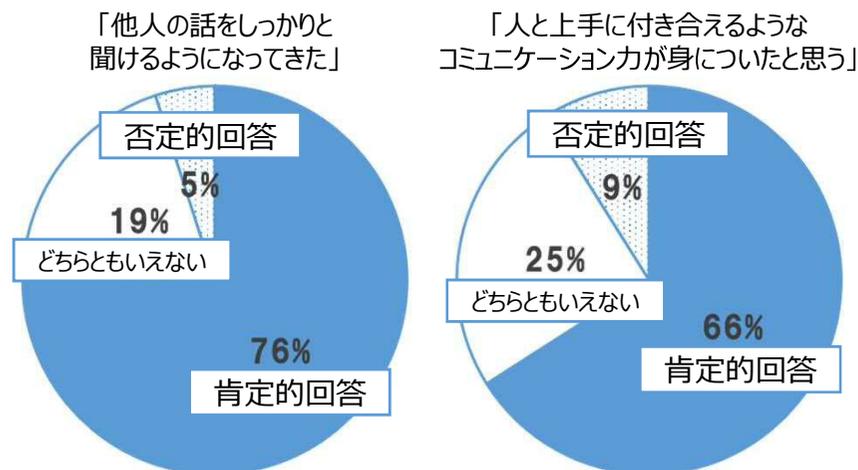
- ◆ 社会人基礎力を身に付けるための「エンパワメントタイム」では、「正解が1つでない問題」について考える授業を実施
- ◆ 「エンパワメントタイム」において、各分野の専門家による講演や授業によって、「ほんものに触れる授業」を実施
- ◆ スクールカウンセラー（S C）やスクールソーシャルワーカー（S S W）・キャリア教育コーディネーター（C C）を配置し、学校生活を中心に生徒を支援するとともに、卒業後の社会的自立に向けたキャリア教育を推進

【 S C 】 100時間（5時間×20日）

【 S S W 】 144時間（6時間×24日）

【 C C 】 450時間（5時間×90日 開校4年目以降は時間数半減）

令和元年度 エンパワメントスクール3年次末アンケートより



令和元年度 教育行政に係る点検及び評価報告書より

	目標（令和4年度）	平成28年度	令和元年度
進路決定率	95%以上	84.2%	93.3%
欠席者数の減少率	60%以上	47.8%	48.9%
遅刻者数の減少率	60%以上	55.4%	51.0%

▲ 令和4年度の目標達成に向けて取組みのさらなる充実が必要

▲ 「知的障がい」「発達障がい」など「さまざまな配慮を要する生徒」が増加しており、生徒1人ひとりの状況に対応するためには支援のさらなる充実が必要（E S校長より）

成果

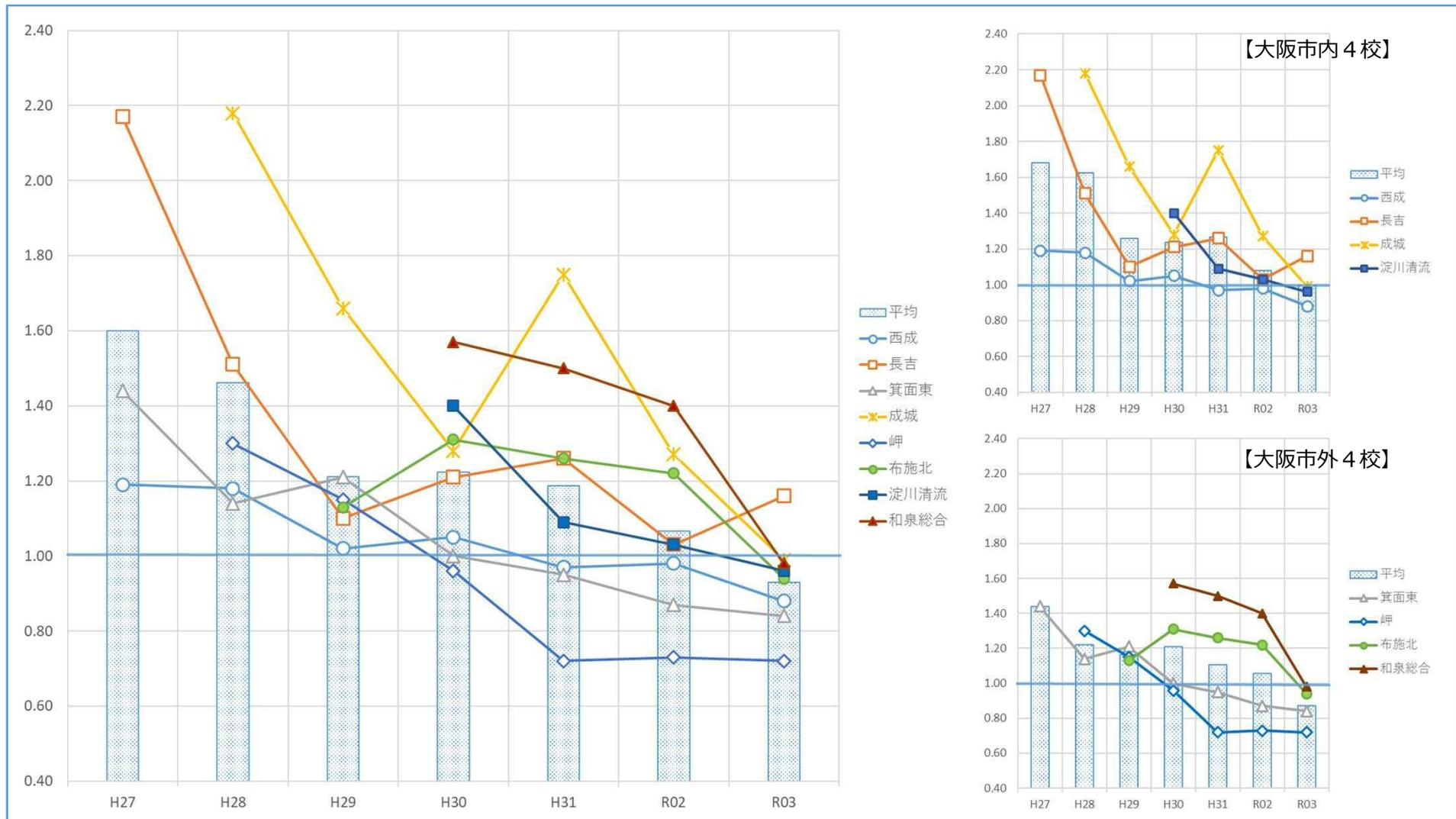
多くの生徒が社会で必要な力が身についたことを実感しており、生活面を支援する取組みの成果と言える

課題

配慮を要する生徒の増加などに対応するには、現状の支援に加え、各校の事情に応じたよりよい支援方法を検討する必要がある

(2)-① エンパワメントスクールについて

志願倍率の推移について ※ 2次選抜を含む (ただし、令和3年度選抜については2次選抜を含めない暫定値)



- 令和2年度選抜までは平均倍率1.0倍以上を維持。(令和3年度の暫定*平均倍率は0.93倍 ※ 2次選抜含まず)
- 地域によっては募集定員を満たすことができていない学校がある。(但し、一定の需要は安定してある)

(2) エンパワメントスクールの取組み

② 大阪府立長吉高等学校のとりくみ

府立高校（エンパワメントスクール）からのプレゼンテーション

府立長吉高校 黒田 浩継 校長

◆報告：15時15分～15時35分

◆意見交換：15時35分～16時05分

大阪府立 長吉高等学校の とりくみ

大阪府学校教育審議会
2021.3.22

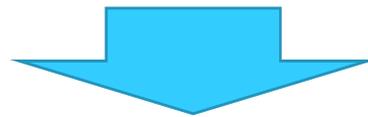


The New Nagayoshi High School will **EMPOWER** you.

長吉高校の概要

1975(S50)年

地元の願いで全日制普通科高校として開校



2001(H13)年

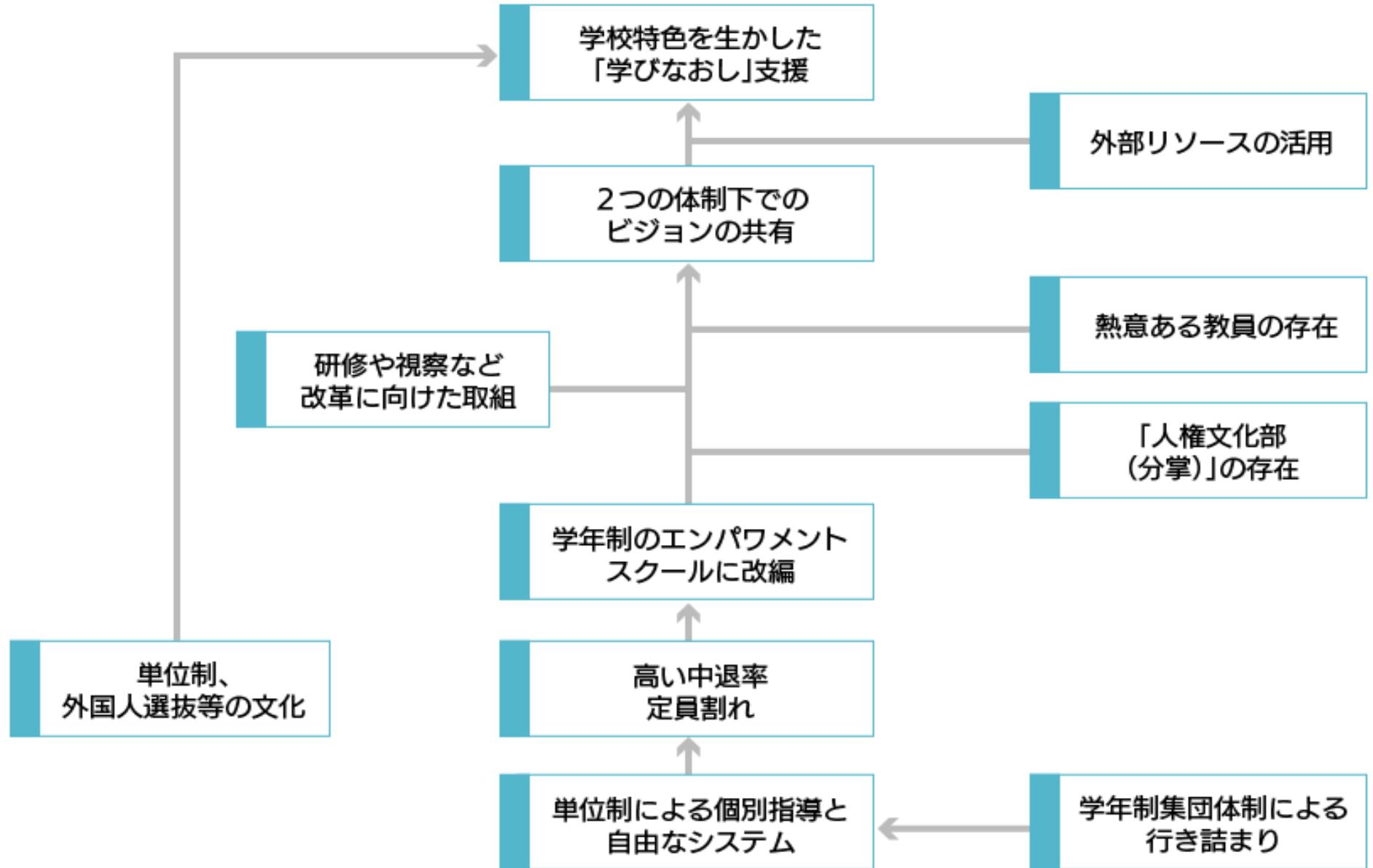
全日制普通科単位制高校に改編

「中国帰国生徒及び外国人生徒入学選抜」を開始



2015(H27)年

全日制総合学科エンパワメントスクールに改編



長吉高校に通う生徒たち

- ☆外国にルーツのある生徒
「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人
生徒入学者選抜」
- ☆「発達障がい」等支援の必要な生徒
- ☆平野区を中心に自転車で通学できる生徒
- ☆生活保護受給等経済的支援の必要な生徒

長吉高校の特色

- 一人ひとりに応じた「わかる喜び」を重視した授業
1年生の国語・数学・英語は30分のモジュール授業
- アジアに視点を置いた国際理解教育と多文化共生を推進
- 制服制度の導入によりマナー指導を充実し社会人基礎力を育成
- 実用的な技能・資格の取得を推進
- スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、キャリア教育コーディネーターなどの専門人材の配置

ESへの改編前と改編後の変化

改編前(単位制)

☆進路希望に合わせた多様な授業選択が可能。

このシステムをうまく利用して、国立大学へ進学した外国にルーツのある生徒がいる。

★一方で「自己責任」が大切とされる自由なシステム

に適応できずに出席状況が悪化し中退する生徒が増加。

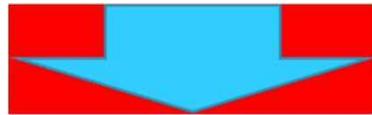


中退率の増加と卒業率の低下が大きな課題となる。

ESへの改編前と改編後の変化

改編後(エンパワメントスクール)

☆学年制の導入で、登下校の時間を規定し、制服着用、
頭髪指導をはじめとする規律ある生徒指導を実施。



☆基礎基本からの学習、安心できる居場所の提供で
学校に定着する生徒の増加。



☆中退率の低下、地域からも認められるようになる。
地元平野区からの志願者の増加。

エンパワメントスクールとは

☆生徒の『わかる喜び』や『学ぶ意欲』を引き出し、
しっかりとした学力と社会で活躍できる力を身につける

☆共通する特徴

「短時間・習熟度別授業」

「**タブレットや電子黒板**を活用した授業」

「参加体験型学習」

「学校生活や進学・就職に向けての**サポート**」

⇒ **再編整備課によるSSW・CCの配置**

☆各校の特色に応じた個性的な取組

モジュール授業

1年次に少人数かつ習熟度別のクラスで行う、学習のつまずきを取り除き、基礎学力の定着を図るための授業。

		月	火	水	木	金
1-2 限 110 分	30分	国語	数学	英語	国語	数学
	10分休み					
	30分	数学	英語	国語	数学	英語
	10分休み					
30分	英語	国語	数学	英語	国語	

みんなで見聞を出し合う授業!

GS I

国際問題
人権問題
環境問題

社会の様々な
問題を考える

産業社会と人間

言葉で表現し自分に気づく
実社会で対話する力を育む

正解が一つでない問題

WS

世界の国々
について理解を深める

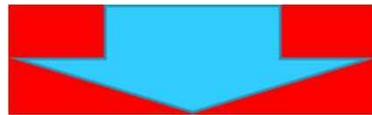


ESへの改編前と改編後の変化

改編後(エンパワメントスクール)

☆1年次のモジュール授業でわかる喜びを体感。

生徒の個性・ニーズに合わせた居場所の提供。



★2年次ギャップの存在。

社会で対応できる学力が身に付いているのか？



★人間関係づくりの苦手な生徒が社会適応できる力を如何に身に付けるか？

生徒一人ひとりの安心をサポート!

● 相談しやすい環境 & 体制

- ▶ スクールカウンセラー(心理)
- ▶ スクールソーシャルワーカー(福祉)
- ▶ キャリアコーディネーター(就職)



安心の居場所「なかカフェ」

☆「課題を抱える生徒フォローアップ事業」

NPO法人「office ドーナツトーク」が
校内に生徒の居場所として
放課後に週2回
カフェをオープン。

平野区主催の「ひらの青春
生活応援事業」と連携



長吉高校が大切にしてきたもの

人権文化部の活動

- ☆ 多様なニーズを持つ生徒や外国にルーツのある生徒など、一人ひとりの個性を認めあい、皆が人として大切にされる学校づくり
- ☆ 教員向け研修や多文化共生の視点による生徒交流
- ☆ 外国にルーツのある生徒の進路支援

外国にルーツのある生徒

フィリピン	26	ボリビア	2
中国・台湾	14	インドネシア	2
ベトナム	8	メキシコ	1
韓国・朝鮮	8	ブラジル	1
ネパール	4	タイ	1
ペルー	3	スペイン	1
パキスタン	2		

13ヶ国 68人※

※ 複数の国にルーツのある生徒が含まれるため、上記の合計数とは一致しない。

杵校として大切にしてきたこと

☆日本社会で生きる力をつけるために

◎日本語学習

学習言語の育成(教科学習につながる日本語)
社会で使える日本語(⇒進路保障)

◎母語学習

思考力の育成とアイデンティティの確立
保護者のサポート(⇒保護者支援)

◎つながる力をつける

☆コミュニケーション力 ☆表現力 ☆SOSを出す力
教科外活動として、生徒交流会、スピーチ大会、ボランティア活動、ゲストティーチャーなどへの参加
⇒ 実績を記録に残して進路実現につなげる。

長吉高校の多文化共生の取組

☆多くの生徒が卒業後自己実現

- ・日本社会で自立している。
- ・小中学生、高校生のロールモデル。

☆一人ぼっちにならない

- ・卒業後も日本社会の中で、同じルーツやルーツをこえて生徒がつながっている。
(ネイティブ教員の存在)
- ・信頼できる日本人、日本社会とつながっている。
(「梓校」で関わる教員への信頼がベース。)

☆ちがいを豊かさにする社会の実現へ

- ・教職員や日本人生徒、保護者の気づきや学び。

外国にルーツのある生徒に関わる現状と課題

★「枠校」の取り組みの継承と広がり

◎人材確保と育成

- ・ネイティブ教員、日本語指導ができる教員の採用
- ・母語支援者の確保、校内コーディネーターの育成

◎大阪府としてのフレームづくり

日本語教育学校支援事業の継続・発展

- ・NPOとの連携、少数点在校との連携、大学との連携

ネイティブ言語の特別非常勤講師の授業回数確保。

高校における日本語教育の確立

- ・シラバス・教育法・教材の集約・継承・開発

★法の壁 不安定な保護者の滞在資格

「家族滞在」⇒就労不可・日本学生支援機構利用不可⇒帰国

文化部 多文化研究会



中国 台湾

タイ



韓国 朝鮮
Nagayoshi Empowerment

「可能性」

(第11期卒業生 書家「蓮々」)

